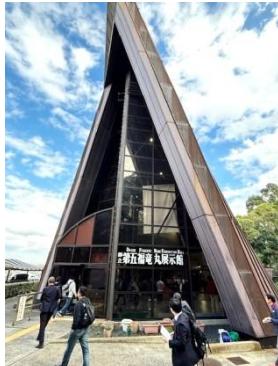


おおふな

横浜地本・八王子地本合同「情報づくり研修」に参加してきました！



【第5福竜丸展示館】

第5福竜丸は、1954年3月1日、太平洋のマーシャル諸島のビキニ環礁で、アメリカが行った水爆実験で「死の灰」（放射性降下物）をあびて被爆した、静岡県焼津市の焼津港所属のマグロ延縄漁船です。死の灰を受けた乗組員23名全員が被ばくによる思い症状が出て無線長の久保山愛吉さんが半年後に亡くなりました。

被爆から2年後の1956年、東京水産大学（現・東京海洋大学）の練習船「はやぶさ丸」に改造されましたが、1967年に老朽化に伴い廃船処分となり、東京のゴミ埋立場所「夢の島」に放置されました。しかしそれを知った市民から「保存しよう！」と声があがり、原水爆による惨事が再び起こらないようにという願いをこめて、1976年6月10日、東京都立第5福竜丸展示館が開館されました。

【小名木川駅職員慰靈碑】

小名木川駅は、総武本線貨物支線の貨物駅として1929年に開業するも、貨物輸送形態の変化による取扱量の減少から2000年に廃止されました→現在は「複合型商業施設Arriō北砂」

東京大空襲で小名木川駅も壊滅的被害を受け、設備や貨車、貨物が焼失、当日勤務していた駅員24名中12名が殉職しました。大空襲の犠牲となった12名と業務中の事故で亡くなった4名の駅員の靈を追悼する慰靈碑として、1962年に建立されました。

揮毫きごうは、当時の国鉄総裁・十河信二です。



【東京大空襲・戦災資料センター】

東京大空襲は1945年3月10日、2時間余りの空襲によって、東京の下町一帯は焼け野原になり、約10万人もの人々が犠牲になった、アメリカ軍による無差別爆撃です。戦時中、東京では100回以上の空襲を受け、多くの人々が家財を焼かれ、傷つき、命を失いました。戦災資料センターは、東京大空襲をはじめとした空襲や戦争による民間人の被害を明らかにし、伝えていくことを目的に、多くの方々の募金によって設立された、民間の学術研究機関である公益財団法人「政治経済研究所」の付属博物館です。研修当日、東京大空襲を経験された方から講話をいただきました「戦争は楽しい家族を一瞬にしてなくす」「人間の幸福をなくす」「戦争は生き残っても大変な思いをする」「軍事費を上げる内閣は許せない！」と涙ながらに訴えられました。

【研修に参加して】第5福竜丸展示館は初めて来ました。以前、実家の静岡にある焼津市歴史民俗資料館で第5福竜丸コーナーを見学し、無線長の久保山愛吉さんの墓前にも手を合わせてきました。東日本大震災を機に浜岡原発も意識するようになりました。東京大空襲を経験された方のお話は重みがありました。戦争がいかに愚かなのか。アメリカのご機嫌をとるために軍事費をあげる内閣は許せないし、平和であり続けることで得られる幸せを実現するために、今後も声を上げ続けようと思いました！